

神社の杜(十九)

御岳ビジターセンター 片柳 茂生

住み着いてしまった鳥

客 「きれいな声で、しかも大き

な声で鳴っている鳥がいたんで

すけど、なんていう鳥ですか？」

解説員 「こんな声じゃなかったです

か？」(MDから録音した鳥

の声をながす)

客 「そうです、そうです。」

解説員 「それはこの鳥ですよ。」(と

いって図鑑を示す。)

これはビジターセンターの窓口で

のひとこまです。

さて、この鳥はなんだと思います

か？これはガビチョウという鳥なん

です。あまり聞いたことがないでしょ

う。それもそのはず、このガビチョ



イラスト 神田忠良

ウは台湾や中国南部に分布している鳥で、声がきれいなのでペットとして日本に輸入された鳥です。それが一九八〇年代から東京や福岡・山梨などで野生化したものの繁殖が報告されるようになりました。漢字で「画眉鳥」と書かれているとおり眼の周囲が白く、それが後方まで伸び、まるで白い眉毛を画いているように見えるので、そう呼ばれるようになったのでしよう。声はクロツグミによく似ています。

ガビチョウが御岳山で初めて確認されたのは一九九八年、宿坊に設置されている野鳥の餌台に来るのを見たとときでした。その前年の秋、クロツグミが鳴いているのを聞いた解説員は、何でこの時期にクロツグミがとその時不思議に思ったのですが、その後あれはガビチョウだったのかと、それならば合点がいくと確信したようです。山の人も最初の頃は、「いい声で鳴く鳥が来るようになってよかったな」位に思っていたことでしょう。ところが年を重ねるごとにその数は増し、御岳山のおちこちでその声が聴かれるようになって

まいたけ



イラスト 井口三月

人生の後半を当地青梅で過ごした川合玉堂と吉川英治は親交をもち、英治が玉堂に宛てた手紙に

舞茸を振舞ひ

身も舞ひ 千古も舞ふ

胃も舞ふ 夢も

舞ひや 仕舞はん

「きれいな声」から「うるさい」に変わってきたのではないのでしょうか。ついに今年には宿坊の植木の中でガビチョウの巣を見つけてしまいました。中には卵が四個入っていました。これがまた増えるのかと思うと……ガビチョウの他にもソウシチョウという姿のきれいな鳥も増えてきてます。

あなたのところの鳥かこの扉はちゃんと閉まっていますか？

村秋の遠太鼓につられ、友人達と酒を酌み交わし駄洒落に一句：舞茸採りて、山に浮れたる男達のたのしき囃の音も又うれし：とあり、二人のつきあいが深かった事を伺い知ることが出来ます。店先でおなじみの舞茸も自生のものは珍しく、大きな塊は数キロにも成ります。見つけると嬉しくて思わず舞いたくなるから、あるいは姿が舞っているように見えるからその名がついたといわれています。

片柳 至弘

あとがき

米同時多発テロから一年、あの衝撃的な映像には世界中が驚愕したのではないか、これはいわゆる宗教戦争であるが、マスコミ報道から信仰心は全く表に出てこない。しかしテロ直後YMCAや教会に駆込んだ人々が多数いたことを知ると神社のあり方のひとつを考えさせられます。

三橋先生、栗原實様には玉稿を賜り誠に有り難うございます。

平成十四年九月二十九日発行

(年二回発行・非売品)

編集 武蔵御嶽神社

印刷 (株)成和印刷

表紙写真 鈴木新吾

写真提供 海老澤正美